



中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目4番1号  
〒460-8311 電話 652-2211

2015年(平成27年)  
9月16日(水)

# 進む核家族化 遺族に負担

## 遺品整理 代行します

大切な人を失った遺族にとって、思い出のつまった遺品の片付け作業は、精神的にも肉体的にもつらい。そんな遺族に代わり、故人の遺品を片付ける「遺品整理サービス」が盛んになっている。核家族化が進み、「仕事が忙しくて行けない」といった理由で、依頼されるケースも多い。需要増を見込み、中部地方でも参入企業が相次ぐ。(経済部・今村節)

一人暮らしだった愛知県「でも、なかなか片付けられないの七十代女性の部屋に、業者が依頼した。悲しいのは、ソファや大きな鏡が置かれ、身の回り品も多く残っていた。「大橋運輸」(同県瀬戸市)のスタッフ五人が今月上旬、女性の長女(30)の立ち会いで、遺品を段ボール箱に詰め始めた。女性は六月に亡くなった。「二人の兄は仕事で忙しいから」と、離れて住む長女がこの夏休みに訪れ、一部を運び出したという。一般的な作業は、遺品を

## イオンやヤマトも参入



故人宅に残された小物を片付ける大橋運輸のスタッフ＝愛知県内で(畦地巧輝撮影)

分別後、宝飾類など貴重品は遺族のもとに届ける。ほとんどは不用品になり、廃棄か、リサイクル業者に持ち込む。空になった部屋の清掃サービスもある。業界関係者によると、料金は1LDKで十五万～二十万円が一般的という。専門会社として始めた「トップサービス」(名古屋市中区)では、写真などの扱いを遺族に確認し、仏壇や人形は供養して処分する。

びた。昨年四月に中部でのサービスを本格的に開始したイオン子会社「イオンライフ」でも、依頼件数は右肩上がりであり、サービス開始当初に比べて一・五倍に増えた。

一般社団法人遺品整理士認定協会(北海道千歳市)によると、同協会認定の遺品整理士を抱える企業は約三千五百社。このうち中部には八百社ほどあり、増加傾向が続いている。遺品整理サービスへの参入が相次ぐ背景には、高齢者の孤独死の増加もある。協会の伊藤友勝事務局長(30)は「依頼の1割が、お年寄りの孤独死だ」と説明。身寄りがいない人がアパートなどで亡くなり、家主や行政関係者が依頼するケースという。